

SUMIFS関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

【最重要】 SUMIF関数とは「順番」が逆！

【最重要】SUMIF関数とは「順番」が逆！

SUMIFS関数でエラーになる原因のNo.1は、「合計対象範囲」を指定する場所の間違いです。SUMIF関数とは引数の順番が決定的に違うため、ここを最初に押さえましょう。

関数	①番目の引数	②番目以降
SUMIF(条件が1つ)	検索条件範囲（どこから探す？）	検索条件, 合計対象範囲
SUMIFS(条件が複数)	合計対象範囲（何を足す？）	検索条件範囲1, 検索条件1, ...

 **ポイント** : SUMIFでは合計範囲は最後(省略可能)である一方、SUMIFSは、最初に「合計したい金額(数値)の列」を指定します。その後、「条件範囲と条件」のセットを後ろにどんどん追加していくイメージです。

SUMIFS関数の基本構文

SUMIFS関数の基本構文

=SUMIFS(合計対象範囲, 条件範囲1, 条件1, [条件範囲2, 条件2], ...)

作成の3ステップ:

1. 合計したい列を選ぶ(例: 売上金額 D:D)
1. 1つ目の条件のペアを作る(例: 支店 A:A が "東京")
1. 2つ目の条件のペアを作る(例: 商品 B:B が "PC")

数式例: =SUMIFS(D:D, A:A, "東京", B:B, "PC")

(D列の売上から、A列が東京、かつ B列がPCのものを合計する)

【保存版】条件指定の「書き方」カタログ

【保存版】条件指定の「書き方」カタログ

「1000円以上」「4月1日以降」など、実務で頻出する条件指定の書き方をまとめました。特にダブルクォーテーション (") とアンパサンド (&) の使い方が重要です。

条件の種類	書き方のルール	具体例（条件範囲はA列とする）
完全一致	そのまま文字を入れる	"東京"
〇〇以上	不等号を使う	">=1000"
〇〇より大きい	不等号を使う（=なし）	">1000"
〇〇以下	不等号を使う	"<=1000"
日付（以降）	不等号と日付を入れる	">=2025/4/1"（日付も数値として扱う）
セル参照	& でつなぐ	">=" & B1（B1セルの値以上）
〇〇を含む	ワイルドカード *	"*セット*"（前後に何があっても「セット」を含む文字）
空白以外	<>（ノットイコール）	"<>"

よくあるエラーの原因と対策

よくあるエラーの原因と対策

「数式は合っているはずなのに計算されない…」そんな時のチェックポイントです。

エラー・不具合	原因と対策
#VALUE! エラー	「範囲の高さ（行数）」が揃っていない。 × 合計範囲は A2:A100 なのに、条件範囲は B2:B99 になっている。 ○ すべての引数を2行目から100行目までで揃えるか、A:A のように列全体を指定する。
答えが0になる	条件の文字列が微妙に違う。 データに不要なスペースが入っている ("東京 ") や、半角・全角の違いがある。 → データ範囲に TRIM 関数を使うか、ワイルドカード "*東京*" であいまい検索する
数式の記述エラー	不等号をダブルクォーテーション (") で囲っていない。 × >=1000 ○ ">=1000"

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。